

各位

2024年9月20日
石塚硝子株式会社

太陽光パネルの循環利用に向け、 金城学院大学との産学連携プロジェクトを開始

— 学生の創造力で、ガラスの新たな活用方法を探る —

「solaGlass プロジェクト」

石塚硝子株式会社と金城学院大学の産学連携による太陽光パネルガラス再利用への挑戦

石塚硝子株式会社（本社：愛知県岩倉市、代表取締役 社長執行役員：石塚久継、以下「石塚硝子」）は、金城学院大学（所在地：愛知県名古屋市の学長：小室尚子）と産学連携協定を結び、太陽光パネルガラスのアップサイクルを目指す「solaGlass プロジェクト」を開始しました。

2024年9月より、金城学院大学 生活環境学部 環境デザイン学科 弓立ゼミの3年生10名に参加していただき、学生の自由な発想と創造力を生かして付加価値の高いコンセプトの創出を目指します。プロジェクト名の「solaGlass」は、「solar」と「Glass」を合わせたものであり、太陽光パネルのガラスを再利用するという意義が込められています。

2024年9月10日に石塚硝子本社岩倉工場で開催されたキックオフミーティングでは、太陽光パネル廃棄の問題や石塚硝子の環境への取り組みの紹介並びに工場見学を実施し、ガラス作りの実態を把握していただきました。



【太陽光パネルの廃棄問題】

2000年以降の太陽光発電の急速な普及に伴い、2030年代後半には多くの太陽光パネルが寿命を迎え廃棄されることが予測されています。太陽光パネルは総重量の60%前後がガラスで構成されており、その再利用方法が重要な課題となっています。solaGlass プロジェクトでは、この廃棄ガラスを新たなガラス製品の原材料として再利用したプロダクトの創出をすることで、埋め立て処理に回るガラスを減らし有用な資源として循環させ環境負荷の低減を目指します。

あいちサーキュラーエコノミー推進プラン並びに太陽光プロジェクトチームについて

愛知県では、「あいちサーキュラーエコノミー推進プラン」(2022年3月策定)に基づき、2022年度から2031年度までの10年間の計画期間として、サーキュラーエコノミーへの転換による循環ビジネスの進展を図っています。

本プランに掲げられている6つの推進モデルを推進するために、7つのプロジェクトチームが活動しております。

その中の1つ、太陽光プロジェクトチームでは、将来の太陽光パネルの大量廃棄を見据え、使用済パネルを廃棄(埋立)ではなく全て循環資源としてリサイクル・リユースする土台づくり「あいち太陽光パネル循環プラットフォーム」の構築を目指して取り組んでおります。

石塚硝子も本チームに所属しており、金城学院大学との産学連携プロジェクトもあいちサーキュラーエコノミー推進プランの一環として、愛知県内の資源循環に寄与するべく活動を進めて参ります。

お問い合わせ先：

石塚硝子株式会社 新事業・機能材料カンパニー イノベーション推進部

TEL: 0587-37-2762

関連リンク

- [愛知県 HP](#)
 - [「あいちサーキュラーエコノミー推進プラン」を策定しました](#)
 - [サーキュラーエコノミー推進プロジェクトチームを立ち上げます](#)
- [金城学院大学ニュース](#)
- [石塚硝子株式会社](#)